

1 2 月報(2022 年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【今村カトリック教会信徒発見 150 年祭】

内藤 悦子

私は福岡教区の今村出身です。幼児洗礼で生まれて 6 日目に洗礼を受けました。今村教会は信徒発見 150 年祭を迎えました。その式典には私も参列しました。その時、今まで迫害にあっても守り続けた信仰を引き継がなければいけないと思います。と話されていました。

125 年祭の時の記念誌『信仰の道程』を父から送って貰いました。広島へいるので実家 1 冊、私に 1 冊と 2 冊申し込んで送ってくれたそうです。時々みていました。

ある人から「今村教会の歴史について書かれた本があるよ！」と教えてもらったのが『守教』でした。聴いてからすぐ図書館で借りて読みました。歴史ものは苦手な私ですが一気に読みふけりました。

ある神父様から「信仰のルーツはどこですか？」と聞かれたけど答えられませんでした。信徒発見 125 年史『信仰の道程』を見ても写真を見て、懐かしんでいただけでした。

『守教』を読んでから今村の信者隠れキリシタンのルーツを知りました。高橋は上高橋、下高橋と 2 か所の高橋がありますが上高橋のことだろうと思います。

子どもの頃の「けいこ」(教会学校)では浦上の信者によって隠れキリシタンが発見されてからの事しか聞いていませんでした。

1. 例えば祭壇の下はお墓でこの上に祭壇を立てよ！と言われてたので建てたそうだ。
1. ながれこにはジョアン又右衛門という殉教者の記念碑がある。
1. 長崎から隠れ信者がいると探しに来られた時、四旬節だったので今は肉を食べられないのでご馳走は出せません！と言って接待した。

などその位の記憶しかありません

現在はわかりませんが、幼少の頃は、今村集落は信者だけで未信者の人は一人もいませんでした。私は上高橋という集落で信者と未信者が半々の集落でした。隣組も信者の家、未信者の家と別れていました。

結婚も信者同士か相手に洗礼を受けてもらうかでないかと親が許しませんでした。教会には結婚のお世話をしてくれる女性がいました。隣の集落の人、あるいは同じ町内の信者さんというのが多かったです。現在には通用しないことですが私も叔父の知り合いの信者ということで婚姻

の秘跡をうけました。

『守教』を読んで鎖国の時代に迫害にあっても信仰を守りとおしたということを知り、私も我が家でも後々に伝えていかなければいけないな！と思いました。でも……

実家は弟嫁が洗礼を受けてくれて、子や孫も洗礼を受けています。義妹は私の舅に「青木のお墓に入りたかったら洗礼を受けなさい！」と言われたそうです。後でそのことを知りどうして舅がいったのかな？親が言いにくいので言ってくれたのかな？と思いました。

甥の嫁が義妹に「お義母さん私はどうしたらいいのでしょうか？」と相談したそうです。その時に舅から言われた言葉を伝えたそうです。すると受洗のための勉強をして今は家族で教会に行ってるそうです。

そうやって信仰はうけつがれていくのかな？

今は信仰が自由なので強制はできませんが、孫たちがいつかは「教会へ行ってきたー」と自分で教会へ寄ってくれることを祈りながら……

今村教会は今、耐震工事のために聖堂には入れないそうでミサは信徒会館でされているそうです。

『守教』に出てきた集落を案内したマップがあるの？と聞いたらないそうです。私も離れて47年たっているので昔と道路や風景が変わっているだろうな？でもチャンスがあれば巡ってみたいなと思いました。（『守教』上・下）あります。読んでみたい方は声をかけてください。

【カテキスタ研修会に参加して】

田中 靖

広島教区のカテキスタ養成第4期生として、今年5月に第1回研修がスタートし、7月、11月と今までに3回の研修が終了しました。修了までまだ1年以上必要ですが、3回終了した時点でどんな研修会になっているかについて福山教会の皆様にご報告します。

研修は金曜日昼から日曜日午後までの2泊3日、長東のイエズス会西日本霊性センターで行われます。受講者は15名です。講師は百瀬神父様（長府教会）、ミカエル金神父様（岩国教会）、そして白浜司教様が務められます。カテキスタ1期生であるスタッフの皆様のサポートもあり、濃密な3日間になります。

研修は、司教様、神父様の講義形式の講話が基本です。今期は百瀬神父様は教義学（教会論、秘跡論）を、金神父様は今期は旧約聖書を講義されます。特に百瀬神父様は神学の大家で深い知識と理解をお持ちなので、体系的に講義を受けられるのは大変幸せなことです。1テーマ90分の講義ですので、深く学ぶことができます。講義の後はグループに分かれての分かち合いがあります。講義でわからなかったことや自分が感じた事などを自由に話し合うことでより深い理解が得られます。

最終日には白浜司教様が来られ、講義（霊性と典礼）をされます。11月にご専門の教会典礼について講義されました。今まで何気なく与ってきた典礼が、実は長い歴史と根拠によって築き上げてこられたものであることが理解できました。

研修期間中、ミサは2回あります。最終日は司教ミサになります。キリストの死と復活を記念する最も大切な典礼はミサである、と教えられたばかりなので、自然と深い祈りを込めたミサになります。

広島教区各地から来られている受講者の方々との関わりも貴重なものです。寝食を共に過ごすことで自然と親しくなり、各教会の事情をお聞きしたりして仲間意識が醸成されます。シスター方が作ってくださる美味しい食事もいい息抜きになり、次の講義へのエネルギーになります。

さて、1年半後カテキスタに無事になれたとして、私は一体どこで何の奉仕するのか、まだ明確なイメージはありません。このままわからずに研修が続くのだろうと思いつつ、いつか神様からその役割を与えられることを祈りながら、次の研修が来る日を楽しみにしています。

【死者の日のミサの献金について】

墓地管理部



墓地の全景

11月2日は死者の日でした。この日に行われた死者の日のミサの献金は3年前より墓地の会計に入れさせてもらっています。その使い道について説明しておきます。教会墓地は2013年に大規模改修工事を行い、共同墓や塚墓、新たな区画墓用地、ミサをするための広いスペース等を新設しました。このために、蓄えていた約六百数十万円のほとんどを使いました。そして、それまでは一部の人だけが維持管理費を負担していた状況を改め、墓の所有者全員を対象に年間3000円を基本に維持管理費を集めることにしました。このお金と共同墓・区画墓を売ってできた収益で墓地を維持管理しています。しかしその後、その当時には想像もしてなかった事が次々と起きてきました。一つ目はイノシシによる被害で、イノシシが墓地の周りの側溝を大きな石や木や土で埋めていくということをしちます。そのため墓地の西側にコンクリートで壁を作り、東側の斜面にブロックで土留のための擁壁を築きました。次に豪雨被害です。昨今一時的に大雨が降るようになったので、今まであった溝だけでは足りなくなり、新設しました。また、雨でミサをしている場所の土が流されたため、新しい土を入れて、再び土が流されないための工事をしました。その他にも、墓地を支えている石垣に亀裂が入り、その対策の工事をしたり、祭壇がなかったので新しい祭壇を作ったりしました。そして今回取り組もうとしているのが、

墓地の一部が陥没してきており、大雨の時にそこに水がたまるので、そのための工事です。その他にも、墓地の美化のためにそうじをしたり、木や花を植えたり、もちろん多くの方がボランティアでそういう事をやってくださっていますが、お金が発生することも多々あります。このように墓地の維持管理は、教会の建物の維持管理同様にお金がかかります。死者の日のミサの献金はこれらの出費の一部に使わせていただいています。献金してくださった方の中には、福山教会の墓地にお墓を持っていない人も多くいらっしゃると思いますが、教会が運営している墓地であるということに理解していただければ幸いです。

【み言葉の分かち合い】－ヨハネ福音書 2 章－

ブラザー阿部

『このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。』

今日は、このイエスの言葉に心を留めました。

イエスが大切にされた神殿、それは、神の言葉であり、キリストの体です。教会は、建物ではなく、キリストの心、です。そのことをとがめられたのです。この箇所を読むと、いつも思い出すことがあります。

私は、30年以上、教会での宣教販売に携わって来ました。今も続いています。日曜日、教会で販売の準備をしていると、毎年、1度～2度、この箇所が読まれる日に販売があたります。何か後ろめたい(笑)気持ちになります。もちろんそんな気持ちは無いのですが、神の国の宣教とはいえ、具体的には、この箇所に当てはまるように思うからです。

ただ、良い思い出があります。大阪教区の私の大親友でもあり、大変尊敬していた、ある宣教師の神父さまの教会を訪れた時です。私が販売の準備をしていると、そばにいられて、暖かい笑顔で、毎回こう言われるのです。『ブラザー、聖なる商売を頑張って！』と。

この言葉と、その神父さまの笑顔は、私の宣教の支えです、そして、今でも忘れません。残念なことに、その神父さまは、60歳になる前に、天国に旅立ちました。今は天国で私を支えて下さっていることと思います。

私たちの生活の中の、毎日の出来事、出会い、働き、奉仕、活動、そして祈りできえも、『聖なるもの』でなければなりません。私たちの生活を、もう一度振り返りましょう。

私たちの出来事は、神さまによって聖なるものに変えられるのです。でも、それには私たちの思いが必要です。『主よ、今日1日、私の言葉、行い、出会い、祈り、すべてを聖なるものとしてください。』という、祈りを朝に唱える習慣を付けることをお勧めいたします。

私も、その時から習慣つけようとしていますが、忘れてしまいます。また、明日から唱えたいと思っています。

皆さんが、この分かち合いによって、何か小さなヒントが得られることを心から祈っています



(小高修道院の庭に咲くぎる菊)

夏のある日の小高工房での会話より
小高工房が今年発売した新商品「ゆずのきもち」(柚子胡椒)
を廣畑さんが手に取って、

「昔、小高のどの家の庭にも梅と柿と柚子の木が必ず植えられていた。ゆずは毎年たわわに実って、食卓にさわやかな香りをもたらしていた。

それが原発事故によって実っても、採って食卓にあげることができなくなった。」と。私が「桃栗3年、柿8年、柚子は酸い酸い13年」と言うと、「ここでは『柚子はバカヤロー18年』って言うんだ!」と。実がなるまでそんなに長くかかる柚子の木が、放射能汚染によって採ることのできない物になってしまっていて、多くの農家は、なつてもなりっぱなし、放りっぱなしに。あきらめて柚子の木を切り倒した農家も多いようです。

廣畑さんは、

「ゆずの木に実がたわわになって、放りっぱなしになっているのを見て、何とも心が痛くって、何とかならないものかと考え、線量を測ってもらったら、『出荷できますよ』と言われた。もう、どうにもならない物ではない!!この柚子の実を活かす方法はないかと考え付いたのが、柚子胡椒! 柚子の気持ちになつてみたら、『もう僕、大丈夫なんだけど、誰も見向きもしてくれない!このさわやかな香りと、酸っぱいけど、きりっとしまった

酸っぱさが何とも言えないのに、みんなダメだと思って見向きもしてくれない!』そんな柚子の気持ちを考えていたら、なんと!小高の私たちの気持ちと重なることに気が付いたのです。私たちもいつまでも被災者でなく、普通の生活に戻っているのです。同情を寄せてくださることはありがたいけど、いつまでも憐れみのまなざしでなく、普通に一生懸命生きている者として、対等に接していただきたい。もう私たち大丈夫なんです!と」

(東京教区ニュース8/1付 395号の聖心会穎川政子シスターの記事「ゆずのきもち」も参照)



(この写真は小高工房の陳列棚です。写真がうまく一つにつながらなかったのですが、ちょっと写真をずらし

てみてください。大蛇もびっくり激辛カレー、大辛カレー（この時品切れ）、坦々焼き豚、辛油、ゆずのきもち、うまくて生姜ねえ、などの商品。肝心の三色の唐辛子が写っていないのが残念。）

またある日、官民合同チームの経済産業省の方が小高工房を訪れてくださった。この方は、3年前まで、小高の事業所起業のための補助金申請の支援をしてこられた方で、廣畑さんも小高工房を軌道に乗せるための補助金申請のためにお世話になられたとか。このお二人の久しぶりの出会いの中での会話を興味深く聞かせていただきました。

「小高工房は元気にやっていますか？」、「はあー、何とかぎりぎりの線で！」、「廣畑さんには本当に感心するよ！自費を投じてここまでやって。」「お金は上から降ってくるものではないんですよ。上から降ってくることに慣れてしまっちゃいけないんですよ。頑張らなければ、消えていくのがこの世界の普通のことなんだから」、「そうだよ、いつまでも補助金に頼ってちゃいけないだよ、」、「普通に生きることは、毎日気が抜けないですよ。キリキリで、トントンでいいんです。それが普通のことだから。」

今まで当たり前前に思っていた普通の生活が、地震、津波、原発事故で壊されたこの地の住民の方の、普通の生活への強い思いを感じました。もちろん事業を軌道に乗せていくための補助金の支援を否定しているわけではありません。支援がなければ、やっていけないところもあるでしょう。ただ、それに甘えない姿勢に私は感動しました。

あの生業裁判訴訟の記事の中で、筆者の娘さんが書いていた、「普通の生活が望めない」苦しみを抱えた方がまだまだ多くおられることにも心を向けたいと思います。

災害復興団地の方の中にも、自分たちは被災者の意識はもう卒業したという方もおられます。と同時に、津波で行方不明のまま、遺体の上がない方は、いろんな場面で思い出されて、重い気持ちをいつまでも抱えて、すっかり軽い明るい気持ちになれない方も多くいらっしゃることも事実です。被災者意識を卒業したと言う方の中にも、地震があるたびに、フラッシュバックで振出しに戻る方があることも事実です。



一人一人の事情が全く違うのと、一人一人の歩みも違うので、一様に物事を片付けられません。

この地域の人々の複雑な心境を思うと、私たちができることは、ただ共に生きて、誰も一人ぼっちではないよと、存在で伝えることしかできません。とは言え、外部者だからできることもあるようです。そのことを探して、心の痛む人々の傍らで、そっと寄り添ってあげればよいなと思っています。

今日はここまでとします。皆様 お元気で！！

（毎週火曜日に、小高工房で開く「なんばんひろば」でパステル教室をしています。聖霊会のシスター村上の指導で。先生のようにうまくできませんが、楽しいです。8月末の作品）

【財務からの一言】

藤井 幸恵

いつもご協力ありがとうございます。

平山陽子様より、寄付金 300000 円頂きました。本当に有難いし、助かります。

私達の教会はこれから修理・修繕のメンテ費用が次々とかかかって行きます。

今回、排煙窓が約 100 万、司祭館のガスの老朽化、風呂のカランの修理と続いています。

皆様からの浄財は大切にに使わせて頂きますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

12・1月の行事予定

12月		1月	
4(日)	待降節黙想会	元旦	神の母聖マリア 成人のお祝い
8(木)	無原罪の聖マリア	8(日)	主の公現 成人のお祝い
18(日)	日曜学校終業式	9(月)	主の洗礼
24(土)	主の降誕 クリスマス(前晩)	11(水)	キリスト教一致集会
25(日)	主の降誕 クリスマス(日中)	21(土)	パイプオルガンコンサート
30(土)	聖家族	22(日)	ミカエルフェスタ月間
31(日)	聖体賛美式		

【編集後記】

待降節が始まりました。あわせて新しいミサ式次第が導入されることになりました。11月27日(日)主日の9時のミサでは、戸惑いながら唱和しました。この日は教会の大掃除にあたり、正面玄関には日曜学校によるクリスマスツリーと馬小屋が並べられました。主のご降誕を寿ぐ気持ちは高まりますが、日々の暮らしと祈りを大事にしながら、この待降節を過ごしていきたいと思います。(S.N) 月報委員会